

地域情報（県別）

【秋田】クリニックを地域に開放、健康増進イベントを定期開催-熊谷真史・くまがい診療所院長に聞く◆Vol.2

「働く人たちへの医療」がテーマ、診療は夜7時までの曜日や土曜午後も

2025年2月7日（金）配信 m3.com地域版

英国ホテル調のユニークな外観・内装を施した「くまがい診療所」（秋田県大館市）では、地域住民に向けて健康増進イベントを開催している。診察時間では伝えきれない医療のことを解説する「きがるに健康塾」やヨガ、チェアエクササイズ……。2025年2月からは院内のオープンキッチンを使って薬膳料理教室も開く予定だ。熊谷真史院長が「働く人たちへの医療」をテーマに掲げる背景やイベントの内容を聞いた。（2024年12月21日オンラインインタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら



熊谷真史氏（クリニック提供）

「もっと早く来ていれば……」問題意識がテーマに

——くまがい診療所は、「働く人たちへの医療」をテーマに掲げているといいます。その背景をお聞かせください。

元気な人が元気なまま働いて生活できるよう、その一助になりたい思いがあります。それというのも、「もっと早く来ていただければ……」と勤務医時代からよく思っていたためです。忙しく働いている人の中には、会社の健康診断で異常を指摘されても医療機関を受診せず、病気が進行して症状が重くなってからご相談いただくことが多くありました。私が開業する前に勤めていた秋田労災病院ではいろいろな患者さんを診ていたこともあり、「もう少し早く来てくれればこんなに悪くならなかったのに」と悔やまれることが少なくなかったのです。

身近な地域のかかりつけ医として、特に働く人たちにとって相談しやすいクリニックでありたい、医療受診のハードルを下げたいといった思いが、英国ホテル調の外観・内装としても表れています。

——夜まで診療する日を設けている点もこのテーマを意識してのことでしょうか。現在の患者層もお聞かせください。

そうですね。働いている人が受診しやすいよう、火曜日と木曜日は夜7時まで診療しており、土曜日の午後も受け付けています。実際、午後5時以降に受診される方がけっこういて、「平日は仕事で来られない」と土曜日に来院する人もいます。

今のところ患者層は当院が掲げるテーマと一致しており、30～50代の患者さんが多い状況です。私は約15年にわたって病院で勤務医を務めましたが、そのころとは明らかに患者層が異なっています。「健診で引っかけた」と話す患者さんは毎日のようにいて、患者さんが抱える病気としては働いている世代なので生活習慣病の人が目立ちます。



くまがい集会所の会場となる院内2階の多目的室（クリニック提供）

ヨガはキャンセル待ち、1回500円と低料金

——くまがい診療所は2階の多目的室を開放し、地域住民に向けて健康をテーマにしたイベントを開いているそうですね。

「くまがい集会所」と題した健康増進イベントを2024年5月から開いており、知人を講師に招いて毎週月曜日の夜にヨガを、月2回平日に、椅子に座って行うチェアエクササイズや脳トレ体操などを行っています。ヨガは30～50代の男女10人が通っており、チェアエクササイズには60～80代の女性15人ほどが参加しています。地域の口コミや院内に置いてあるチラシを通して、くまがい集会所のことを知ってくれているようです。

当院は「働く人たちへの医療」を掲げていますが、こうしたイベントは年代を限定せず、多世代の健康増進に寄与したいと思い、企画しました。当院で事務長・保健師を務めている妻と開業前から「こんなこともしたいね」と話し合い、クリニックを造るにあたって活動に適したスペースを多目的室として整備。多目的室は36.5平方メートルの広さがあります。

——参加者の感想はいかがでしょう。

くまがい集会所の企画や細かなところは妻がやってくれているので私に感想が寄せられることは少ないですが、「新しい居場所ができた」「気軽に楽しい」などの感想が聞かれており、評判は良いようです。患者さんで参加される人もいますし、ヨガの方は現在、10人ほどがキャンセル待ちをしている状況なので需要があったと言えるでしょう。ヨガは1回500円、チェアエクササイズは1回300円と低料金に設定している点も利用のしやすさに影響していると思います。

——「地域」の点でいうと、くまがい診療所では医療面で病診連携にも力を入れている印象を受けます。

医療のリソースが潤沢ではない地域柄、勤務医のころから連携に取り組んできました。大館市では市立総合病院が地域連携を促進しようと、病院と開業医で患者情報を共有する「地域連携パス」を主動しており、私は開業後も参加しています。地域医療がうまく回っていくよう、当院で担当できる患者さんはなるべくお引き受けするようにしており、中でも循環器疾患、糖尿病、腎疾患の症例は積極的に情報共有しています。

——最後に、開業医としてのやりがいと今後の展望をお聞かせください。

患者さんの中には開業して間もないころから継続して通ってくれる人もいます。「これまで病院には行ってなかったけど、ここならいいかな」と思ってもらえているのはうれしく、開業医冥利に尽きますね。

ありがたいことに忙しくさせてもらっているので、今後に関しては手広く何かをやっていくのではなく、「働く人たちのために」というテーマの中身をどう充実させていくか、いかに地域の人に医療につながってもらうかを考え、できることをやっていきたいです。私は産業医の活動も行っているのですが、企業に働きかけて健診で異常を指摘された人の受診率を高めたい思いもあります。

くまがい集会所の方も展望を描いています。会場の多目的室はオープンキッチンを備えているので、これを活用して料理教室の開催を増やしたい。2025年2月から薬膳料理の教室を開くほか、働き盛りの患者さんにはあまり料理をしない人が多い印象を受けるので、40、50代の高血圧症の人向けに減塩食を作る機会を設ける、といったことも構想しています。また、短い診療時間では十分に話すのが難しいテーマについて、1時間にわたって私が無料でお話しする「きがるに健康塾」を2023年に3回開き、「帯状疱疹とワクチン」「漢方」「子宮頸がんワクチン」について解説しました。定期開催はできていませんが、こちらもまた時間をつくって行きたいです。

地域の人にとって病院はまだハードルの高いものですが、開業医としては本当に気楽に来てもらいたい。地域の人が日常の買い物と同じ感覚で行けるような存在に成長できるよう、これからもアイデアを具体化していきたいです。

◆熊谷 真史（くまがい・まさふみ）氏

1999年米国アイオワ大学卒、2007年大阪大学医学部卒。青森県の健生病院で研修を受け、同県の病院に勤務した後、地元の秋田県に戻り秋田労災病院に勤務。2023年くまがい診療所を開院。「働く人たちへの医療」を掲げ、地域住民向けに自院で健康イベントも開催する。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

